

漢法苞徳塾資料	No. 123
区分	治療論・各論
タイトル	少陽病の鍼灸治療
著者	八木素萌
作成日	1989.06

◇六経弁証では少陽病は胆の病が主なものである。

『傷寒論』の記述から主要なものを見ると

『少陽之為病 口苦 咽乾 目眩也』

(少陽ノ病タル 口苦ク 咽乾キ 目眩スルナリ)

『少陽中風 両耳無所聞 目赤 胸中満而煩者 不可吐下 吐下則悸而驚』

(少陽ノ中風 両耳聞クトコロ無ク 目赤ク 胸中満シテ煩スルモノハ吐下スルベカラズ 吐下スルトキハ悸シテ驚ス)

『傷寒 脈弦細 頭痛発熱者 属少陽〜』

(傷寒 脈弦細ニシテ 頭痛シ発熱スルモノハ 少陽ニ属ス)

『傷寒五六日中風 往来寒熱 胸脇苦満 默默不欲飲食 心煩喜嘔 或胸中煩而不嘔 或渴 或腹中痛 或脇下痞鞭 或心下悸 小便不利 或不渴 身有微熱 或咳者 小柴胡湯主之』

(傷寒五六日中風シテ往来寒熱シ胸脇苦満シテ默默トシテ飲食ヲ欲ッセズ心煩シ喜ク嘔シ 或ハ胸中煩ワシクシテ嘔セズ 或ハ渴キ 或ハ腹中痛ミ 或ハ脇下痞シテ鞭ク 或ハ心下悸シテ小便利セズ 或ハ渴カズシテ身ニ微熱有リ 或ハ咳スル者ハ小柴胡湯之レヲ主サドル)

『傷寒四五日 身熱 惡風 頸項強 脇下満 手足温而渴者 小柴胡湯主之』

(傷寒四五日 身熱シ 惡風シ 頸項強ワバリ脇下満シ 手足温カクシテ渴スル者ハ小柴胡湯之レヲ主サドル)

等々とある。

◇少陽病の基本病症

◇少陽の生理と病理

◇少陽病の鍼灸治療

◇少陽に配当される臓腑と経絡

◇少陽の生理と病理

◇少陽病の鍼灸治療